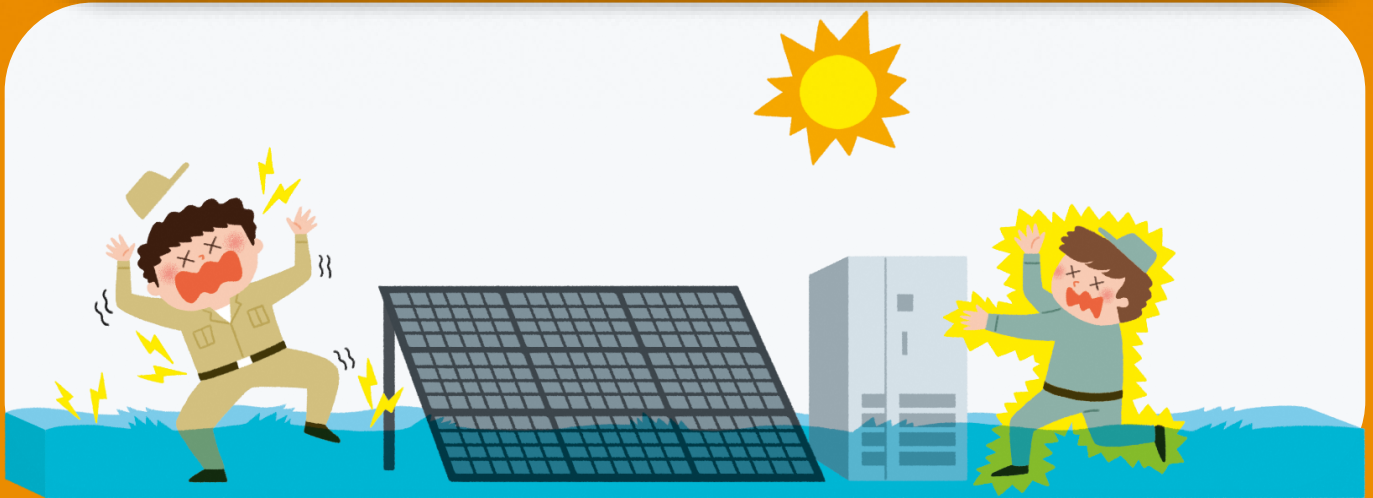


太陽光発電システムの 水害時の

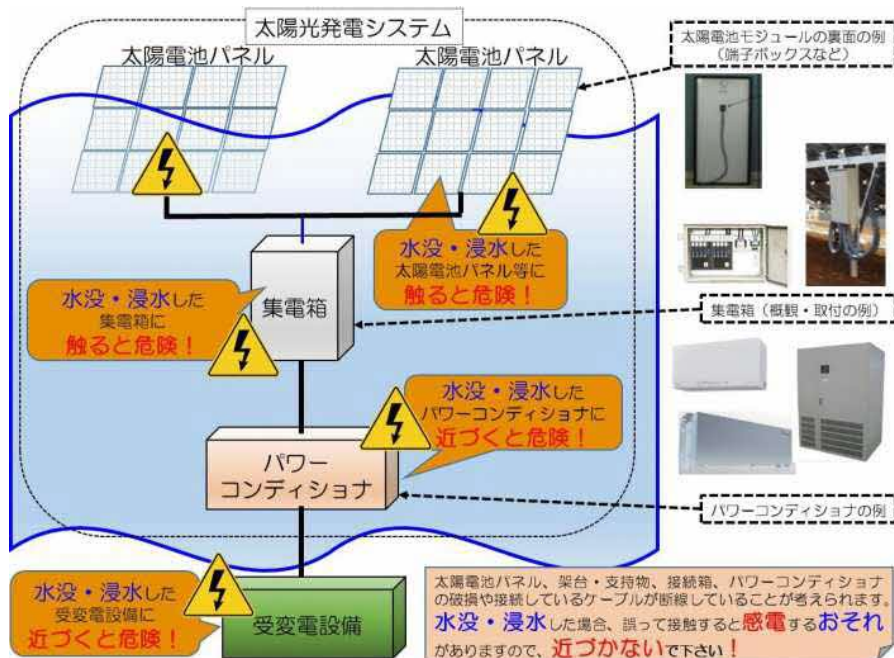
感電の危険性について



水害などで**水没・浸水**した太陽光発電システムに**接近**や**接触**することにより**感電**する**おそれ**があります！

- 台風や大雨、局所豪雨の影響により、太陽光発電システムが**水没・浸水**し**破損**している場合があります。太陽光発電システムはこのような場合でも**光が当たれば300V以上の電気を発電**をします。
- 水没・浸水をした太陽光発電システムに**接近・接触**すると**感電**するおそれがあります。
- 風水害の被害にあった太陽光発電システムに**むやみに近づかず**に太陽光発電システムの**事業者や管理者へ連絡**してください。

水没・浸水した太陽光発電システムの感電の危険がある箇所



太陽光発電協会は、水害を想定して実際に太陽光発電システムを水没させ漏電などによる感電の危険性に関する実験と測定を行いました。

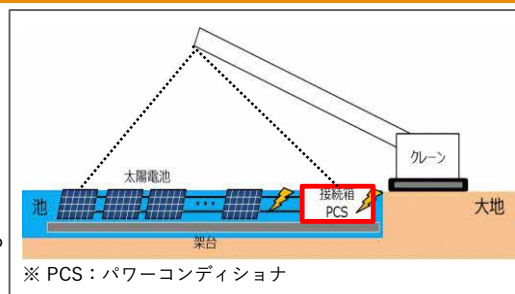
◆水害時の太陽光発電システムの感電リスク

の把握と測定方法の検証を行いました。

◇太陽光発電システムを実際に池に沈め各ポイントでの漏れ電流の測定を行いました。

◇漏れ電流を流さなくするためには大地との電気抵抗（絶縁抵抗）は大きい必要があります

今回は感電の危険予防のため水が引いた後の経過測定も行いました。



水没実験の方法

実験の結果、以下の水害による感電の危険性がわかりました。

- 水没・浸水で破損した太陽光発電システムに近づくと非常に危険です。
- 太陽光発電システムの周囲が水に浸かり、誤って太陽光発電システムや設備機器に接触すると感電の恐れがあります。
- 水が引いた後でも、集電箱やパワーコンディショナの大地との電気抵抗が小さくなっており、感電の恐れがあります。
- 水没・浸水の後はできる限り、感電防止の処置として太陽電池パネルと接続箱を切り離すことを太陽光発電システムや電気設備に十分な知見を持つ専門家へ依頼してください。

- この資料に関するお問合せ先：一般社団法人太陽光発電協会（JPEA：TEL〈ナビダイヤル〉0570-003-045）
- JPEAホームページにも安全関連情報を掲載しています。（<http://www.ipea.gr.jp/document/handout/index.html>）
- この研究は国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託業務「太陽光発電システム効率向上・維持管理技術開発プロジェクト／太陽光発電システムの安全確保のための実証事業」の一環として実施しました。